

風しんの発生状況等について

厚生労働省 健康局

2018年9月27日

風しんについて

概要

- ① 症状 : 発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とする。**無症状（15～30%）**～重篤な合併症併発まで幅広い。
- ② 合併症 : 血小板減少性紫斑病（1/3,000～5,000）、急性脳炎（1/4,000～6,000）、関節炎など。
妊娠中の女性が感染すると児に**先天性風しん症候群(CRS)**が出現。
- ③ 潜伏期間 : 14～21日間
- ④ 感染経路 : 飛沫感染。感染力が強い※（**発症約1週間前～発疹出現後1週間程度感染力**がある）。
- ⑤ 治療・予防 : 対症療法のみ。予防にはワクチンが有効。

先天性風しん症候群（CRS）とは

※基本再生産数(R_0): 5-7（インフルエンザは1-2）

基本再生産数とは、1人の患者から免疫がない何人に疾病をうつしうるかを示す数字

風しんに対して免疫のない女性が、特に妊娠初期に罹患した場合に出生児に引き起こされる障害。先天性心疾患、難聴、白内障が三大症状。他、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたる。

風しん対策の概要

「風しんに関する特定感染症予防指針」（平成26年厚生労働省告示第442号、平成30年1月1日一部改正）

- 目標**：CRSの発生をなくすとともに、2020年までに風しんの排除を達成する。
- 定期予防接種の実施**：定期接種率の目標をそれぞれ95%以上とする。（平成28年度：第1期 97.2%、第2期 93.1%）
- 抗体検査・予防接種の推奨**：普及啓発、自治体に対する抗体検査補助事業を実施。
- 自治体に対する技術支援**：風しん発生手順の手引き等を作成し、自治体に配布。
- 麻しん・風しん対策推進会議の開催**：施策の実施状況に関する評価、必要に応じた当該施策の見直し。

風しんとCRSの発生報告数の年次推移

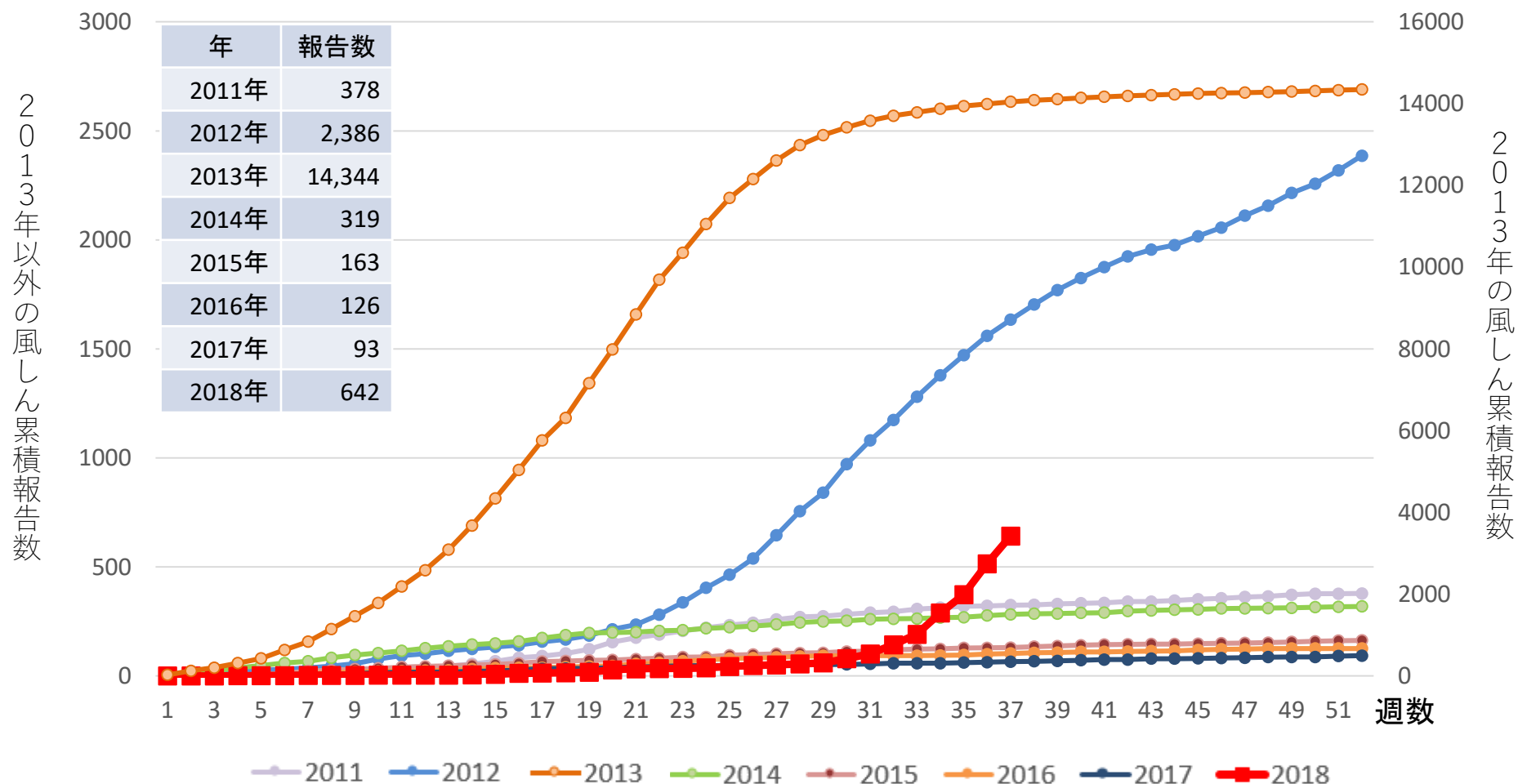
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
風しん (定点)	2,972	3,123	2,561	2,971	2,795	4,239	895	509	463											
風しん (全数)										294	147	87	378	2,386	14,344	319	163	126	93	642
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0

【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。2017年は週報速報値（暫定値）、2018年は9月19日時点の暫定値。

風しんの累積報告数の推移

(2011年第1週～2018年第37週)

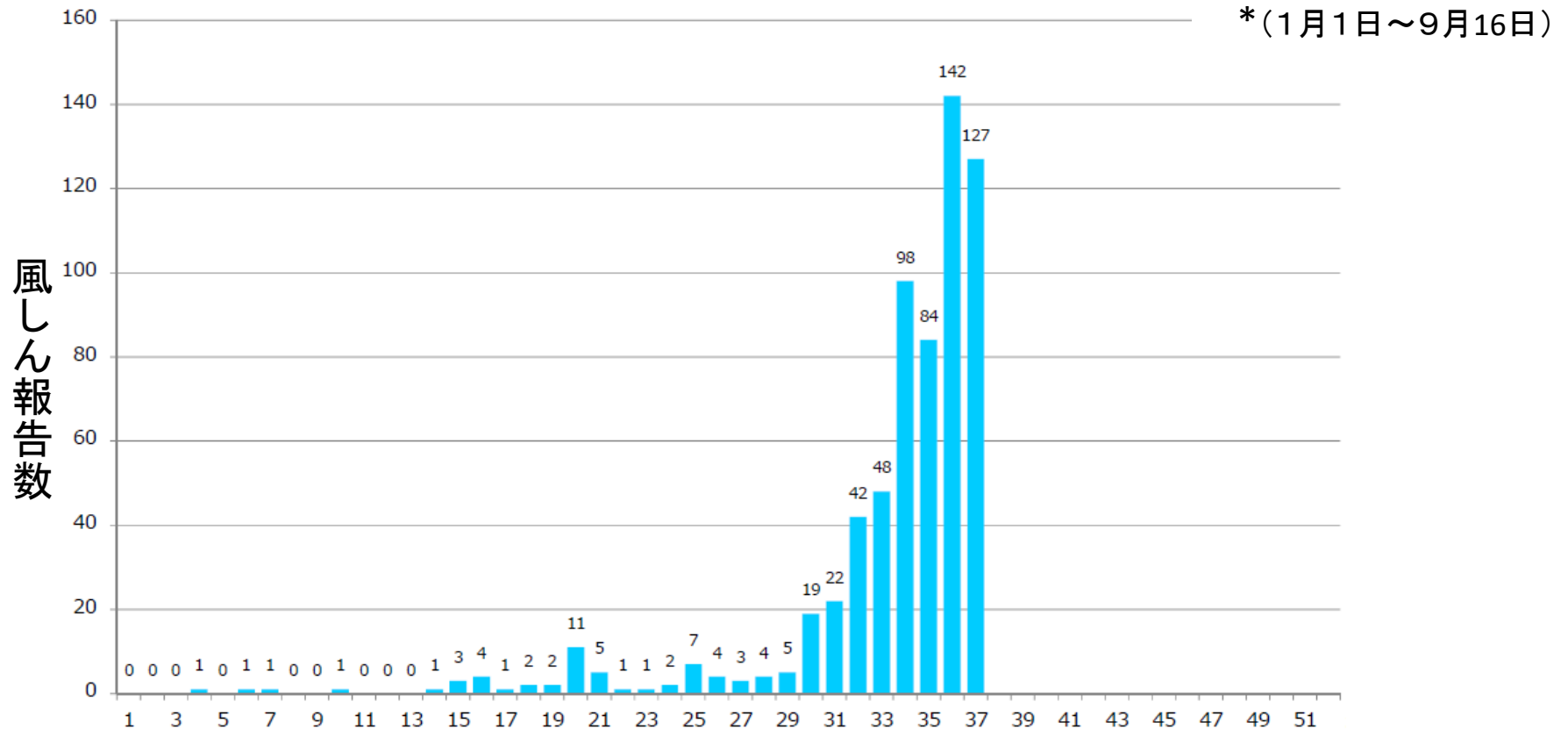
2018年9月19日時点



【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。

風しん報告数

2018年第1週～第37週*、n=642（2018年9月19日現在暫定値）

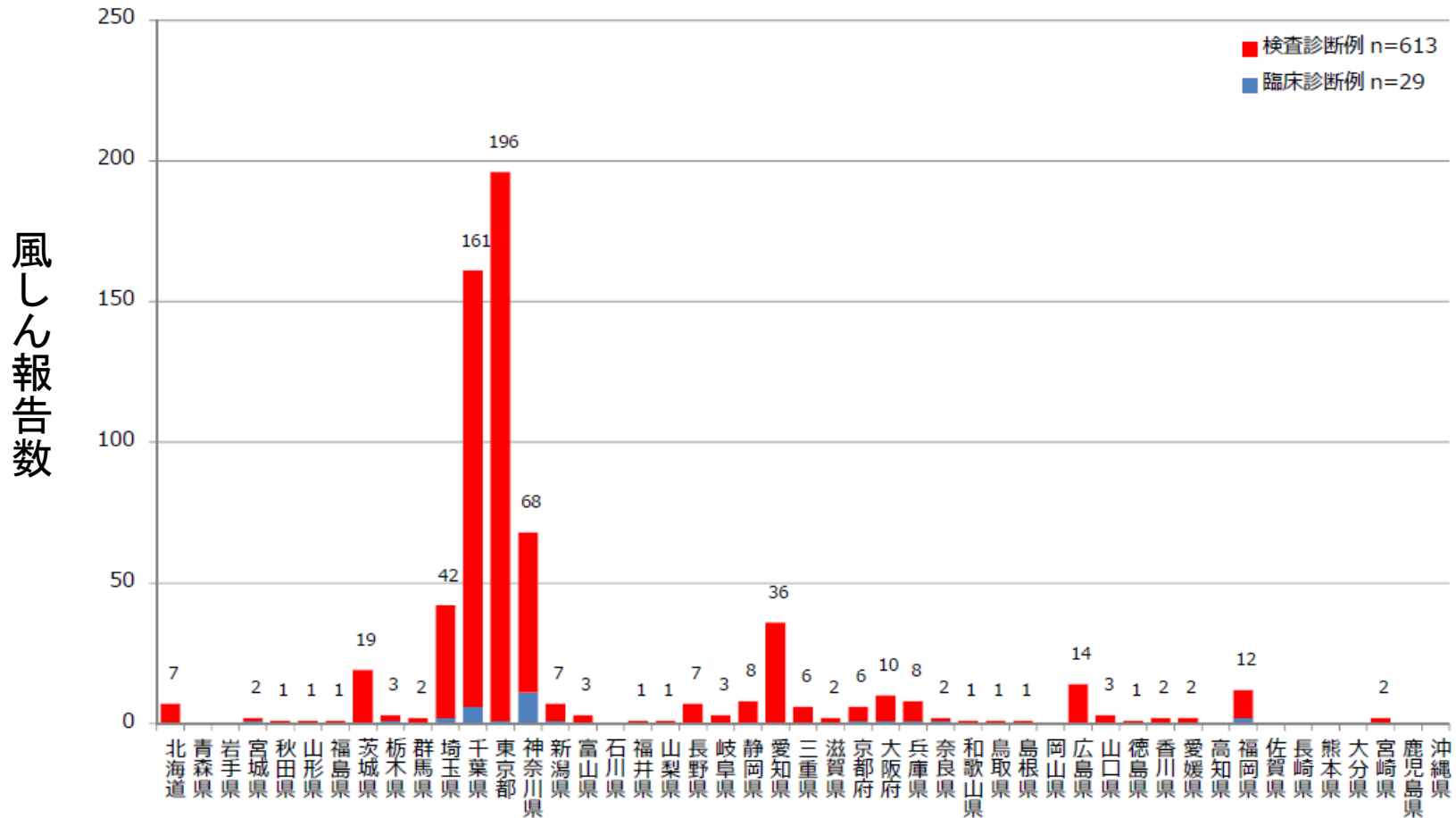


【風しん・CRSの発生報告数の年次推移】CRSは1999年4月～開始（2006年の報告から感染地域が報告対象となった）

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
風しん (定点)	2,972	3,123	2,561	2,971	2,795	4,239	895	509	463											
風しん (全数)										294	147	87	378	2,386	14,344	319	163	126	93	642
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0

都道府県別・病型別風しん累積報告数

2018年第1～37週 (n=642) 2018年9月19日現在暫定値



※都道府県別風しん報告数

第37週 (n=127) : 東京都 (n=39)、千葉県 (n=38)、神奈川県 (n=14)、茨城県・愛知県 (各n=8)

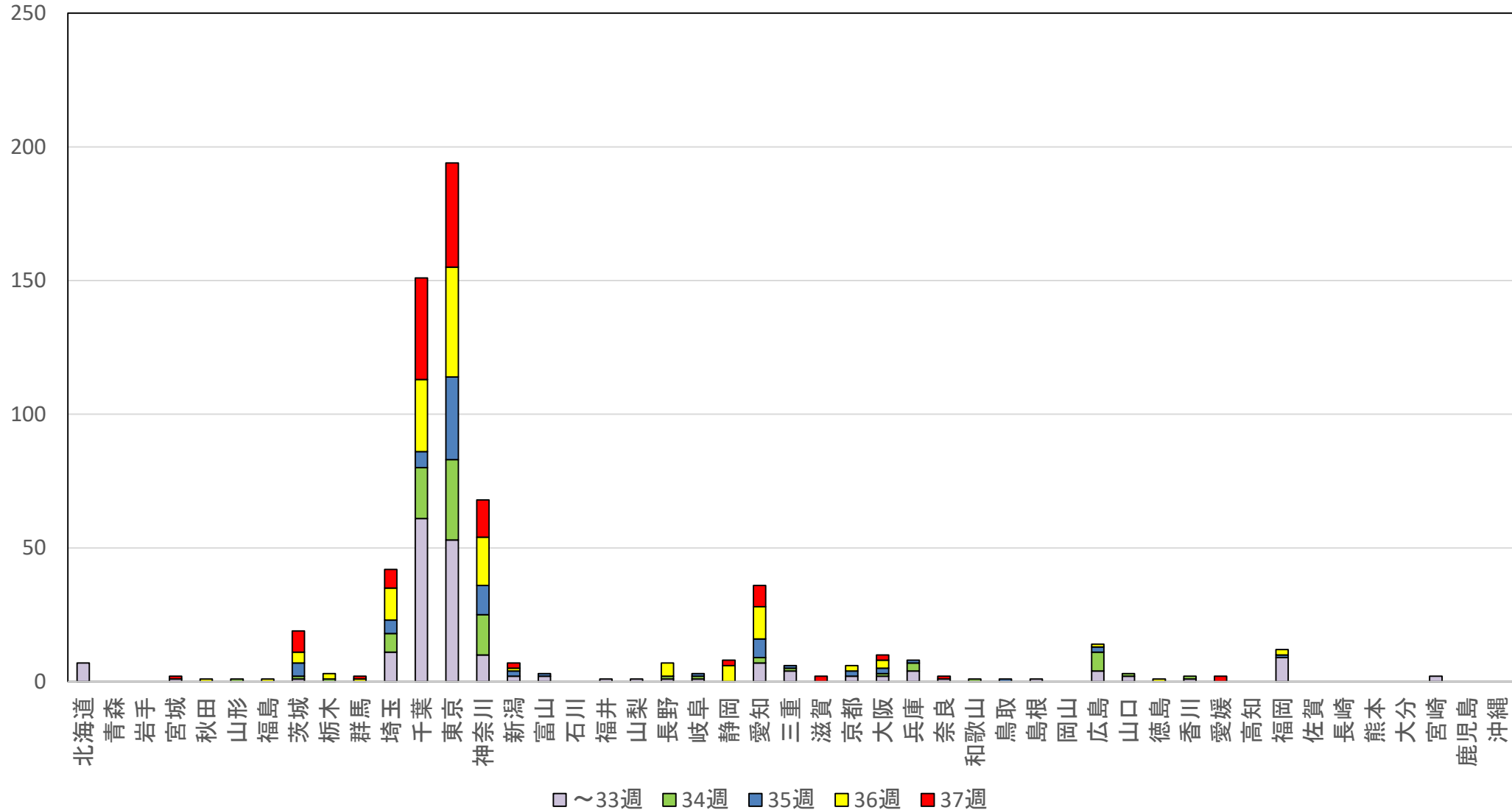
埼玉県 (n=7)、新潟県・静岡県・滋賀県・大阪府・愛媛県 (各n=2)

宮城県・群馬県・奈良県 (各n=1)

【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。2018年は9月19日現在の暫定値。

都道府県別 累積風しん報告数

2018年第1～37週（n=642） 2018年9月19日現在暫定値

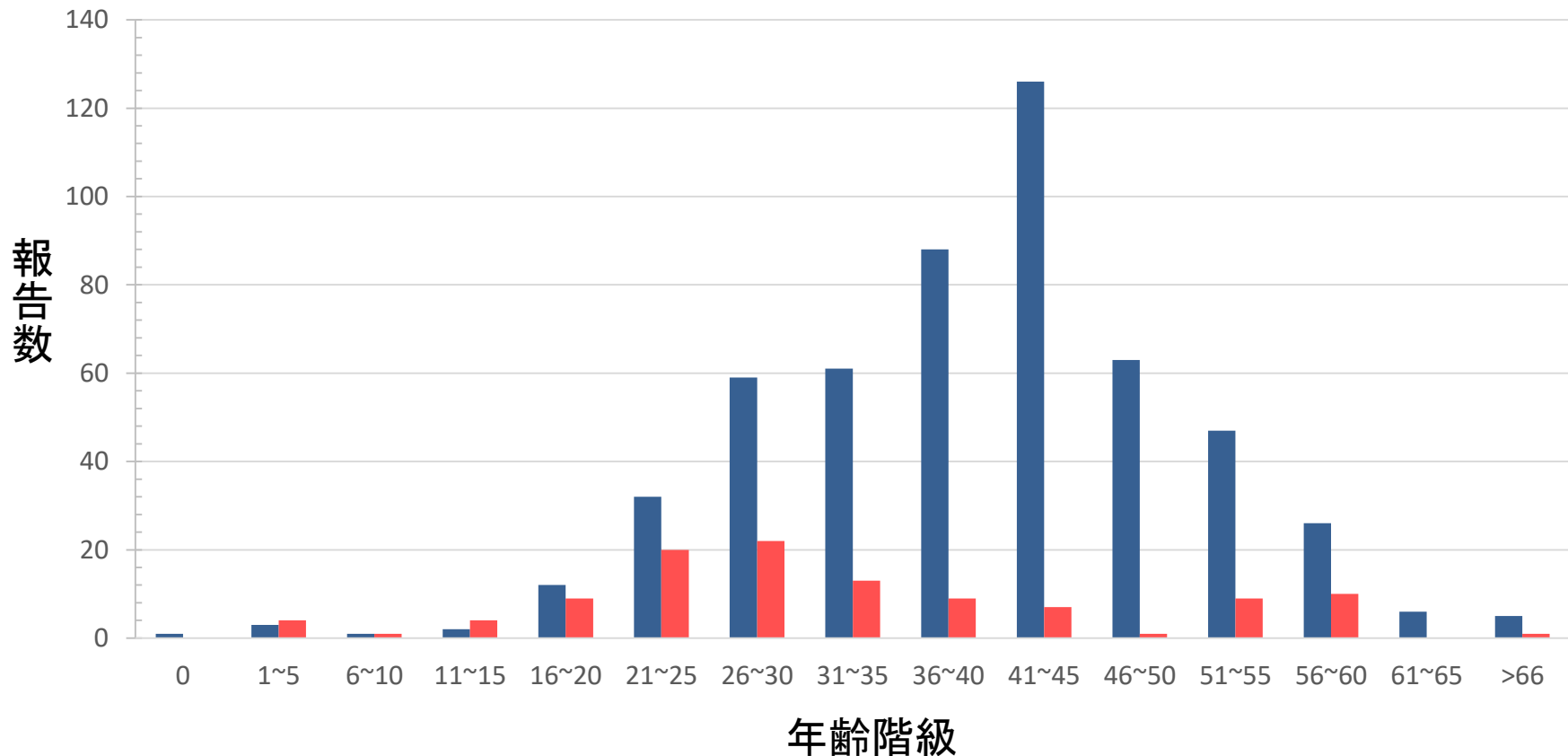


【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。

風しん検査診断例報告数 (性・年齢階級別)

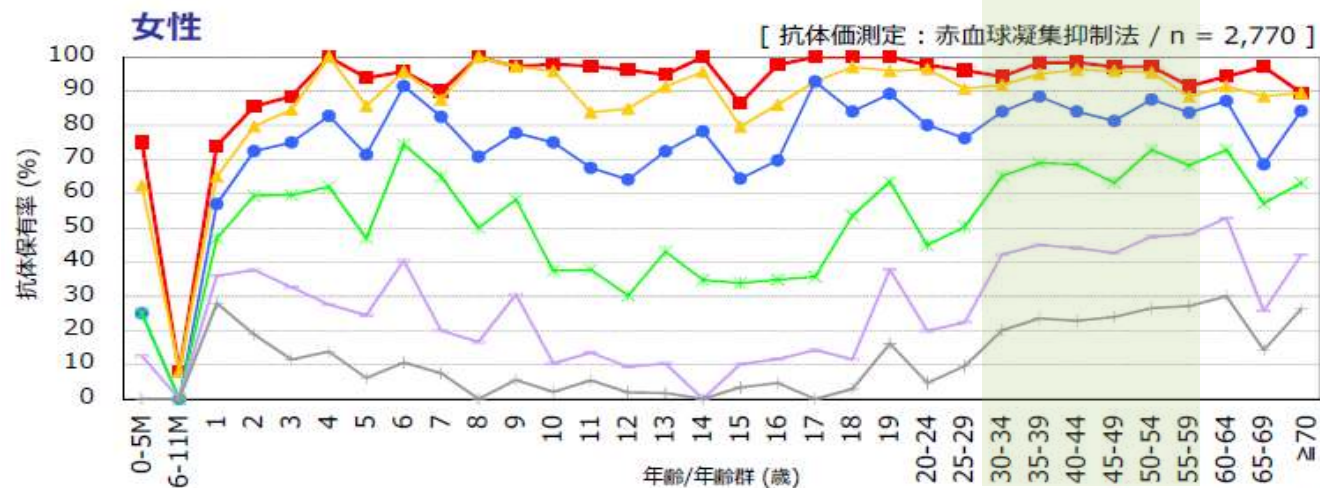
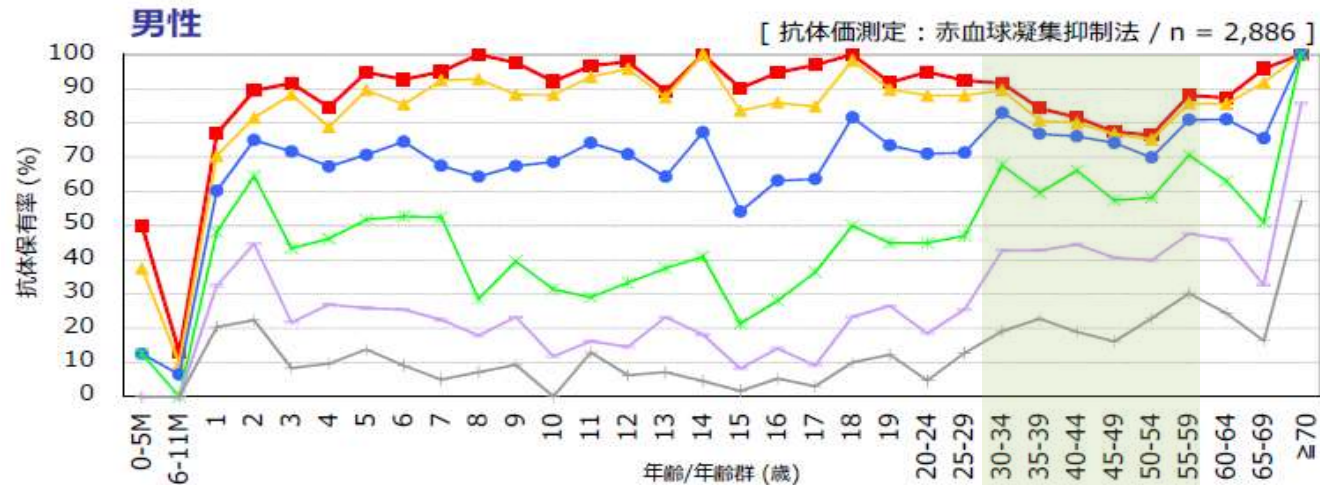
- 2018年第1～37週 (n=642) 2018年9月19日現在暫定値

■ 男性 (n=532) ■ 女性 (n=110)



【出典】「感染症発生動向調査」に基づき健康局結核感染症課において作成。

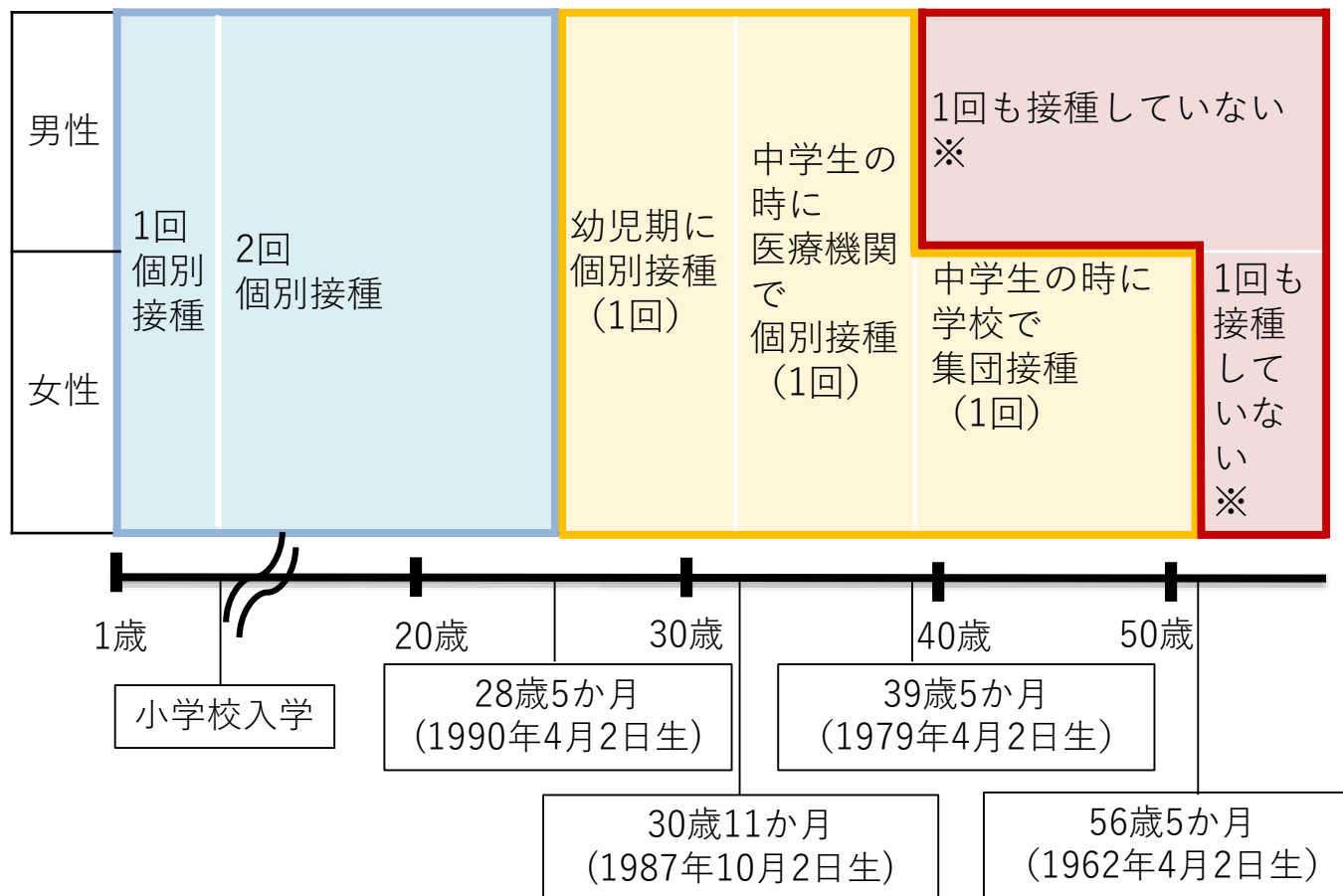
年齢・年齢群別の風しん抗体保有状況 (2017年)



抗体価 ■ ≥1:8 ▲ ≥1:16 ● ≥1:32 × ≥1:64 + ≥1:128 * ≥1:256

流行予測2017

年代別で見る風しんの予防接種制度の変遷



※39歳5ヶ月以上の男性と56歳5ヶ月以上の女性は風しんのワクチンの接種機会がなかった

2018年9月1日時点

今後の風しん対策(案)

先天性風しん症候群(CRS)を防ぐための対策

現在の風しんの発生動向を見ると、関東圏を中心に報告数の増加が続いている。こうした発生動向等を踏まえ、まずは以下の取組を進める。

- ①風しんの症状や感染力、妊婦への影響(CRSの発生)等について正しく理解いただくよう周知
- ②妊娠を希望する女性、妊婦及びその同居家族に対し、抗体検査を受けていただくよう周知。
- ③抗体検査の結果、抗体価が低かった場合に予防接種を受けられるよう環境整備を行う(※)。

(※) 妊婦への予防接種は禁忌であるため、留意が必要。

風しん排除のための対策

上記に続く対策として、予防接種の実施体制の強化等について検討する。